



Houlihan  
Lokey

# レジャー・ホテルセクター 2023年度マーケット動向レポート

2024年7月

# ご挨拶

レポートをご覧の皆様へ

本レポートでは、国内のレジャー・ホテルセクターにおける主要プレイヤーの業績やマーケット情報、直近のM&A動向についてまとめております。

2023年度は、2023年4月の水際対策の撤廃を皮切りとした新型コロナウイルス収束の動きや、記録的な円安の影響を受けて、訪日観光客数は右肩上がりで見られ、2023年12月には2019年同月比で108.2%を記録、日本人による国内旅行消費額も2019年度の水準(約21.9兆円)まで改善する等、活況なマーケットと推察しております。

また、弊社がアドバイザーを務めたセガサミーホールディングスによる大型リゾート施設「シーガイア」運営の子会社フェニックスリゾートの譲渡や、ロイヤルホテルによる「リーガロイヤルホテル大阪」の資産譲渡等、投資ファンドによる日本地域へのPE投資、不動産投資の加速やアクティビストやヘッジファンドの活発なエンゲージメント活動を中心とした資本市場の変化を受けて、当該領域におけるM&Aは今後さらに活発化していくものと思料いたします。

本レポートが皆様の業界理解の一助になりますと幸いです。

今後のレポートにおいて掲載を希望される情報やコンテンツ、その他お気づきの点がございましたら、お気軽に下記連絡先までご連絡ください。

皆様からのご意見をお待ちしております。

2024年7月

## 不動産・ホテル・レジャーセクター カバレッジチーム



高橋 良友  
Managing Director  
[Yoshitomo.Takahashi@HL.com](mailto:Yoshitomo.Takahashi@HL.com)  
+81-80-4368-3490



真家 広樹  
Vice President  
[Hiroki.Maya@HL.com](mailto:Hiroki.Maya@HL.com)  
+81-80-9027-3028



鈴木 尚敏  
Associate  
[Hisatoshi.Suzuki@HL.com](mailto:Hisatoshi.Suzuki@HL.com)  
+81-80-9022-1576



佐藤 由志  
Associate  
[Yushi.Sato@HL.com](mailto:Yushi.Sato@HL.com)  
+81-70-3873-6665

# セガサミーホールディングスによるフェニックスリゾートの譲渡

2024/5/10公表

**SEGASammy**

セガサミーホールディングスによる  
フェニックスリゾートのフォートレス・  
インベストメント・グループへの譲渡

**FORTRESS**

セルサイドアドバイザー

30周年  
開業

898,000人  
年間来客数(2024/3期)

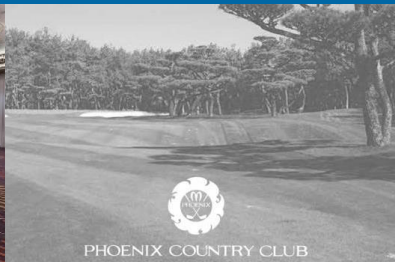
50倍  
東京ドーム面積  
敷地面積237ha、延床面積35万㎡(東京ドーム=4.7ha)



シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート



シーガイアコンベンションセンター



フェニックスカントリークラブ



アミノバイタル  
トレーニングセンター宮崎

## 本件の戦略的意義

**SEGASammy**

- 日本有数の複合型リゾート施設として稀有な資産であるものの、更なるグループの成長を見据えて、戦略的パートナーとしてフォートレスに対してフェニックスリゾート株式を譲渡し、運営の主導を託すことが最善であると判断

**FORTRESS**

- フォートレス・グループ傘下のマイステイズホテルマネジメントと連携してフェニックスリゾートの運営にあたることで、企業価値の最大化及びフォートレス・グループのホテル事業の更なる強化を期待

出所:公開資料

## フーリハン・ローキーの役割

**Houlihan Lokey**

- セガサミーホールディングス(以下、「クライアント」)に対して、フェニックスリゾート運営におけるパートナーシップ企業の提案を実施し、単独のセルサイド・アドバイザーを務めた
- 本件において、特に以下の面でクライアントを支援
  - フォートレス・インベストメント・グループとの強いリレーション及び広範なカバレッジ体制を活かしたスrongバイヤーの招聘
  - 通常のデューデリジェンスに加え、不動産に係るエンジニアリング・レポート調査の受け入れ等、広範なデューデリジェンスの効率的な舵取り
  - 契約交渉において、論点を丁寧に整理し濃淡をつけた戦略的な交渉を主導することで、クライアントの期待する譲渡条件を実現

# レジャー・ホテルセクター | 業績・動向サマリ

新型コロナウイルスの流行により人流減少等の影響を大きく受けたレジャー・ホテルセクターだが、本格的な収束の年となった2023年度は、前年度対比で業績の大きな改善を達成した企業も多く、特にテーマパーク、アミューズメントのカテゴリにおいて利益成長が顕著に表れるかたちとなった

カテゴリ	業界動向	売上高 成長率	営業利益 成長率	時価総額 成長率 <sup>(1)</sup>	EV/EBITDA 倍率(平均) <sup>(2)</sup>
テーマパーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年度は、制限なしでの運営再開に伴い、コロナ禍前の業績水準に改善した或いは水準を超えた企業も多い</li> <li>時価総額は前期比でマイナスを記録したが、前期はコロナ収束後の特需により株価が過去10年間で見て急伸したタイミングであり、コロナ前の水準に回帰する見方もできる</li> </ul>	26.7%	50.4%	(16.8%)	15.5x
アミューズメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームセンター市場は長らく縮小傾向が続いていたが、近年は成長を志向する新たな潮流(新ユーザー・市場の発掘、複合施設化や新規事業の展開等)がみられる</li> </ul>	13.7%	50.6%	21.9% <sup>(4)</sup>	7.3x
ホテル	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録的な円安も相まった活況な訪日観光客の流入や国内消費の需要喚起等により業界として追い風を受けている</li> <li>訪日観光客による国内での消費額は、2023年通年で約5.3兆円に上り過去最高を記録するものの、ホテルカテゴリによって業績に優劣が見られる</li> </ul>	21.7%	260.2%	18.2% <sup>(5)</sup>	11.7x <sup>(6)</sup>

出所:Capital IQ、SPEEDA、公開資料

(1) 2023年5月31日時点と2024年5月31日時点の各社時価総額を比較、(2)各サブセクターの2024年5月31日時点のEV/EBITDAマルチプルの平均値を記載、(3)前期の営業利益がマイナスのため算出していない、(4)GENDAは2023年7月28日上場のため、2023年7月28日時点と2024年5月31日時点の時価総額を比較、(5)エンゼルグループ、50%超を保有する支配株主が存在するポラリス・ホールディングス及びVABホテルは時価総額の計算から除外、(6)株価倍率が計算できないエンゼルグループを除いた14社の株価倍率の平均



## 01. レジャーセクター

---

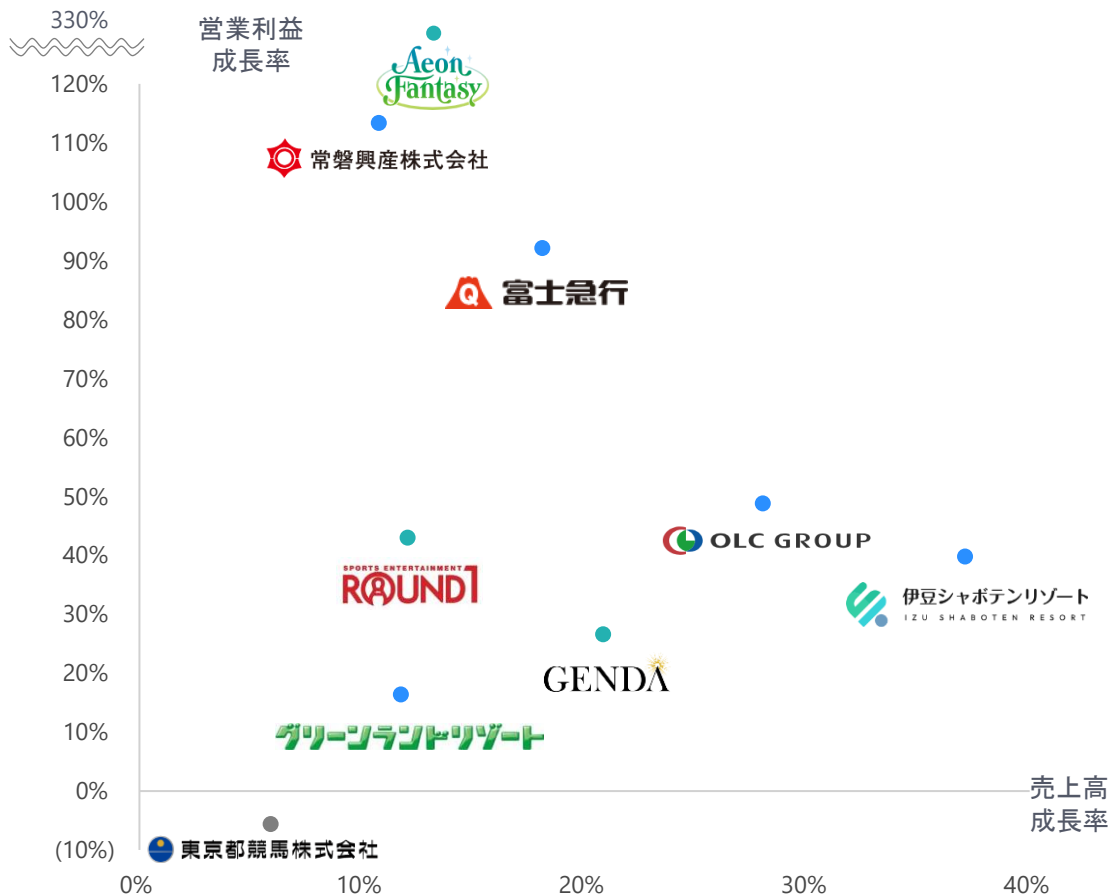
# レジャー | 業績

- 新型コロナウイルスの収束により、入場制限の緩和・撤廃が加速したことで入園者数が急増。また各施設の入園料の引上げによって客単価が押し上げられ、売上高と併せて利益水準が改善する企業も多くみられる
- FY22に復調の見られたアミューズメント業態は売上高の回復が一段落し、一方で屋外テーマパーク業態はFY23に大きく回復。特に、オリエンタルランドや伊豆シャボテンリゾートは国内来場者数やインバウンド顧客数の回復が顕著であり、売上高成長率が高い水準となる

## 業績

(億円)		売上高			営業利益		
		FY19	FY22	FY23	FY19	FY22	FY23
テーマパーク	オリエンタルランド	4,645	4,831	6,185	969	1,112	1,654
	富士急行	523	429	507	45	42	82
	常磐興産	260	134	149	1	6	13
	グリーンランドリゾート	84	57	64	7	8	9
	伊豆シャボテンリゾート	30	34	46	3	6	9
アミューズメント	ラウンドワン	1,048	1,421	1,592	89	169	242
	GENDA	NA <sup>(2)</sup>	461	557	NA <sup>(2)</sup>	42	54
	イオンファンタジー	735	727	818	32	8	36
その他	御園座	30	27	36	(2)	(0.4)	2
	東京都競馬	248	355	375	80	142	134

## 営業利益成長率 x 売上高成長率 (FY2023 vs. FY2022)



出所: Capital IQ、公開資料

(1) FY22とFY23の比較、御園座は22/3期の営業利益がマイナスのため非掲載、(2) GENDAは2018/5設立のためFY19のデータなし

# レジャー | 時価総額推移(直近1年間)

- ・ アミューズメントカテゴリは、GENDAの上場もあり前年対比で大きく伸長
- ・ テーマパークカテゴリは、業績がコロナ禍前よりも回復している企業が太宗であるものの、2023年5月前後はコロナ収束後の特需により過去10年間で見ても株価が急伸したタイミングであったため、直近では5社中4社が前期比でマイナス

## 時価総額

		時価総額		
(億円)		2023/5/31	2024/5/31	成長率
テーマパーク	オリエンタルランド	85,623	71,878	(16.1%)
	富士急行	2,751	1,617	(41.2%)
	常磐興産	106	106	(0.6%)
	グリーンランドリゾート	59	73	23.7%
	伊豆シャボテンリゾート	94	82	(12.8%)
アミューズメント	ラウンドワン	1,809	1,880	3.9%
	GENDA	NA <sup>(1)</sup>	1,135	NA <sup>(1)</sup>
	イオンファンタジー	696	435	(37.5%)
その他	御園座	90	90	(0.2%)
	東京都競馬	1,091	1,130	3.6%

出所:Capital IQ、SPEEDA  
 (1) GENDAは2023/7/28上場

## 時価総額指数推移(単純合算ベース)

2023年5月31日時点の時価総額合計値を100としたときの推移



GENDAは2023/7/28上場のため、  
 アミューズメントは2023/7/28起点で算出

# レジャー | 時価総額推移(2020/1/6 – 2024/5/31)

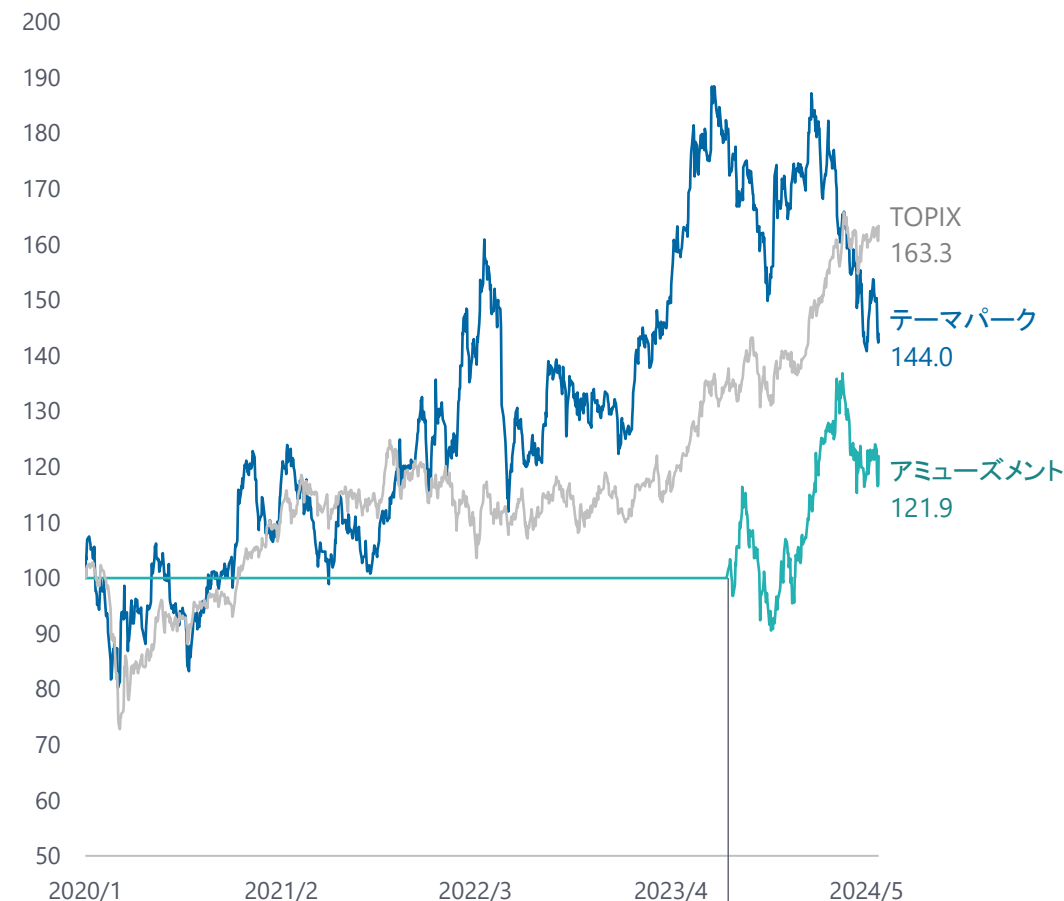
- コロナ禍前後で比べた場合、各カテゴリ全体で見るとコロナ禍前より成長
- 一方で、売上高、営業利益ともにコロナ禍前より+50%超の成長を記録するオリエンタルランド、伊豆シャボテンリゾートやラウンドワンが全体の水準を底上げする形となり、コロナ禍前後で大きな成長を達成できたかどうかで市場からの評価も大きく変動する結果となった

## 時価総額

		時価総額		
(億円)		2020/1/6	2024/5/31	成長率
テーマパーク	オリエンタルランド	48,798	71,878	47.3%
	富士急行	2,193	1,617	(26.3%)
	常磐興産	146	106	(27.7%)
	グリーンランドリゾート	54	73	34.5%
	伊豆シャボテンリゾート	36	82	131.5%
アミューズメント	ラウンドワン	991	1,880	89.8%
	GENDA	NA <sup>(1)</sup>	1,135	NA <sup>(1)</sup>
	イオンファンタジー	581	435	(25.2%)
その他	御園座	143	90	(37.6%)
	東京都競馬	952	1,130	18.7%

## 時価総額指数推移(単純合算ベース)

2020年1月6日時点の時価総額合計値を100としたときの推移



出所:Capital IQ、SPEEDA  
 (1) GENDAは2023/7/28上場

GENDAは2023/7/28上場のため、アミューズメントは2023/7/28起点で算出



# レジャー | マルチプル推移(直近1年間)

- テーマパークカテゴリは、いずれの企業も前年対比でEV/EBITDA倍率(見込みベース)は減少。進行期は各社とも増収増益の計画を掲げているものの、特にオリエンタルランドおよび富士急行は2023年5月前後の株価高騰から現在は水準が切り下がっており、EV/EBITDA倍率も大きく減少
- アミューズメントカテゴリは、M&Aによる成長を進めるGENDAの上場により、カテゴリ全体でのマルチプル水準が底上げされた

## EV/EBITDA 倍率

		EV/EBITDA 倍率		
(億円)		2023/5/31	2024/5/31	前年比
テーマ パーク	オリエンタルランド	50.5x	32.3x	(18.2x)
	富士急行	28.0x	13.8x	(14.1x)
	常磐興産	15.9x	13.0x	(2.9x)
	グリーンランドリゾート	13.5x	13.4x	(0.1x)
	伊豆シャボテンリゾート	7.7x	4.9x	(2.8x)
アミューズ メント	ラウンドワン	5.0x	5.0x	0.0x
	GENDA	NA	12.6x	NA
	イオンファンタジー	6.6x	4.4x	(2.2x)
その他	御園座	26.3x	31.6x	5.3x
	東京都競馬	6.0x	6.4x	0.3x

## EV/EBITDA倍率平均推移(見込みベース)<sup>(1)(2)</sup>



出所:SPEEDA

(1) 見込みEBITDAは会社予想の数値を使用

(2) GENDAは2023年7月28日上場のため、それ以前のアミューズメントカテゴリの倍率はGENDAを除く

## レジャー | 国内の主要なM&A(2023/4 – 2024/5)

#	公表日	対象会社・事業	買い手	売り手	Deal Value (億円)	対象カテゴリ
1	2024/4/23	プレビ	GENDA GiGO Entertainment	個人及び法人株主	NA	アミューズメント
2	2024/4/23	アメックス	GENDA GiGO Entertainment	個人株主6名	NA	アミューズメント
3	2024/4/1	尖閣湾揚島観光	日本海曳船	NA	NA	その他 (観光施設)
4	2024/3/11	サンダイ	GENDA GiGO Entertainment	オーナー	NA	アミューズメント
5	2024/2/19	土岐グランドボウル	スポーツ	マーチャント・バンカーズ	NA	アミューズメント
6	2024/1/25	オーエス	阪急阪神ホールディングス	東宝等	124	その他 (劇場)
7	2024/1/1	川崎水族館事業	MOFF	アイ・レジャー・エンターテインメント	NA	その他 (観光施設)
8	2023/12/26	伊勢夫婦岩パラダイス	さくら	日本産業推進機構	NA	その他 (観光施設)
9	2023/12/6	東京楽天地	東宝	阪急阪神ホールディングス等	233	その他 (劇場)
10	2023/11/21	ワイ・ケーコーポレーション	GENDA GiGO Entertainment	個人株主	NA	アミューズメント
11	2023/10/17	ゴールドエッグス	ハイアス・アンド・カンパニー	NA	3.8	アミューズメント
12	2023/9/1	Kiddleton	GENDA GiGO Entertainment	NA	NA	アミューズメント
13	2023/8/29	大多喜ハーブガーデン	ユニバーサル園芸社	イントランス	0	その他 (観光施設)
14	2023/5/1	TEG(旧東京eスポーツゲート)	サイフなど(第三者割当増資)	TEG(旧東京eスポーツゲート)	37	その他 (テーマパーク)

出所: MergerMarket、RECOF、SPEEDA



## 02. ホテルセクター

---

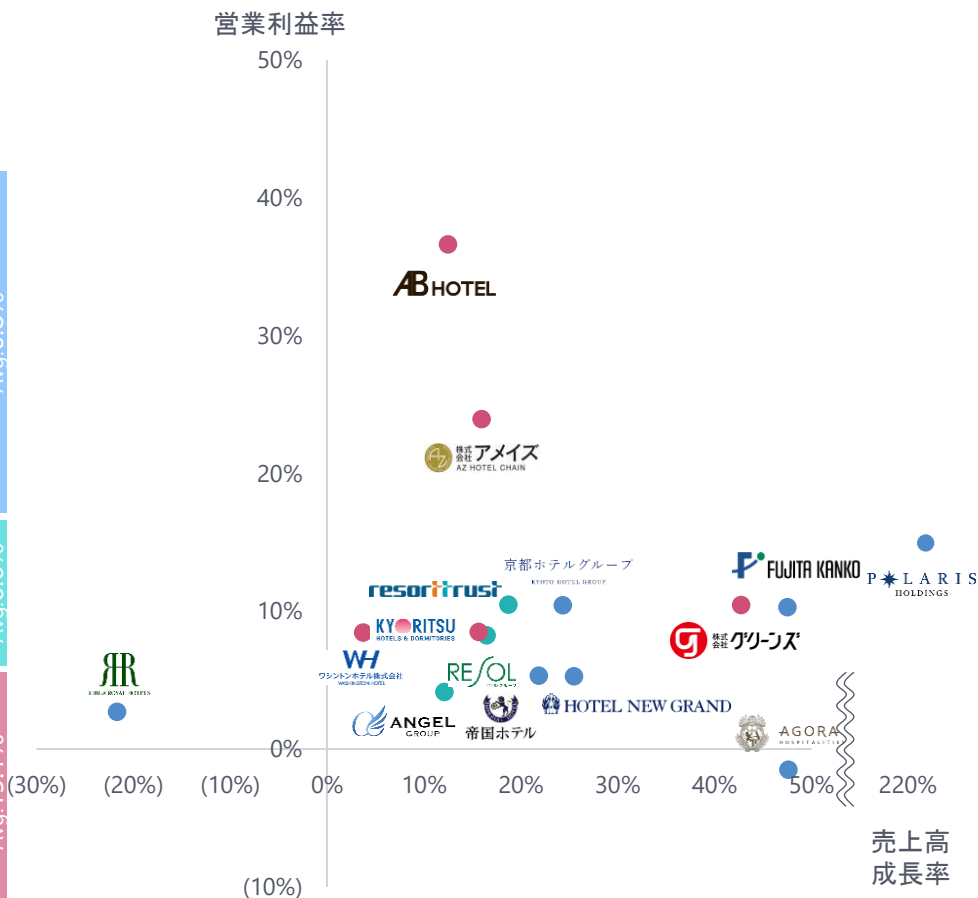
# ホテル | 業績

- ・ シティホテルカテゴリは、コロナ禍の収束による宿泊者数の回帰の影響を最も受けており、高い売上高成長率を記録
- ・ 利益面においては、コロナ禍中に推進したコストカット施策の成果により利益を確保するプレイヤーと、仕入価格や人材確保のコスト増により利益が逼迫するプレイヤーとに二分されている

## 業績

(億円)		売上高			営業利益			利益率	
		FY19	FY22	FY23	FY19	FY22	FY23	FY23	
シティ	ポラリス・ホールディングス	51	70	225	(4)	0	34	15.0%	Avg. 6.8%
	アゴーラホスピタリティーグループ	70	50	73	(1)	(14)	(1)	(1.5%)	
	京都ホテル	106	74	91	6	(0)	10	10.4%	
	ロイヤルホテル	409	264	207	20	(30)	6	2.7%	
	帝国ホテル	584	438	533	50	3	28	5.3%	
	藤田観光	690	437	645	3	(40)	66	10.3%	
	ホテル、ニューグランド	51	43	54	(0)	(4)	3	5.3%	
リゾート・旅館	リソルホールディングス	210	221	257	8	3	21	8.3%	Avg. 6.6%
	リゾートトラスト	1,795	1,698	2,018	190	123	212	10.5%	
	エンゼルグループ	NM	76	85	NM	4	4	4.1%	
ビジネス	ABホテル	55	88	99	14	30	36	36.3%	Avg. 15.1%
	ワシントンホテル	214	175	183	30	30	15	8.1%	
	グリーンズ	309	254	364	24	(22)	37	10.1%	
	共立メンテナンス	1,628	1,756	2,041	146	73	167	8.2%	
	アメイズ	148	145	169	37	31	40	23.6%	

## 営業利益率 x 売上高成長率 (FY2023 vs. FY2022)



# ホテル | 時価総額推移(直近1年間)

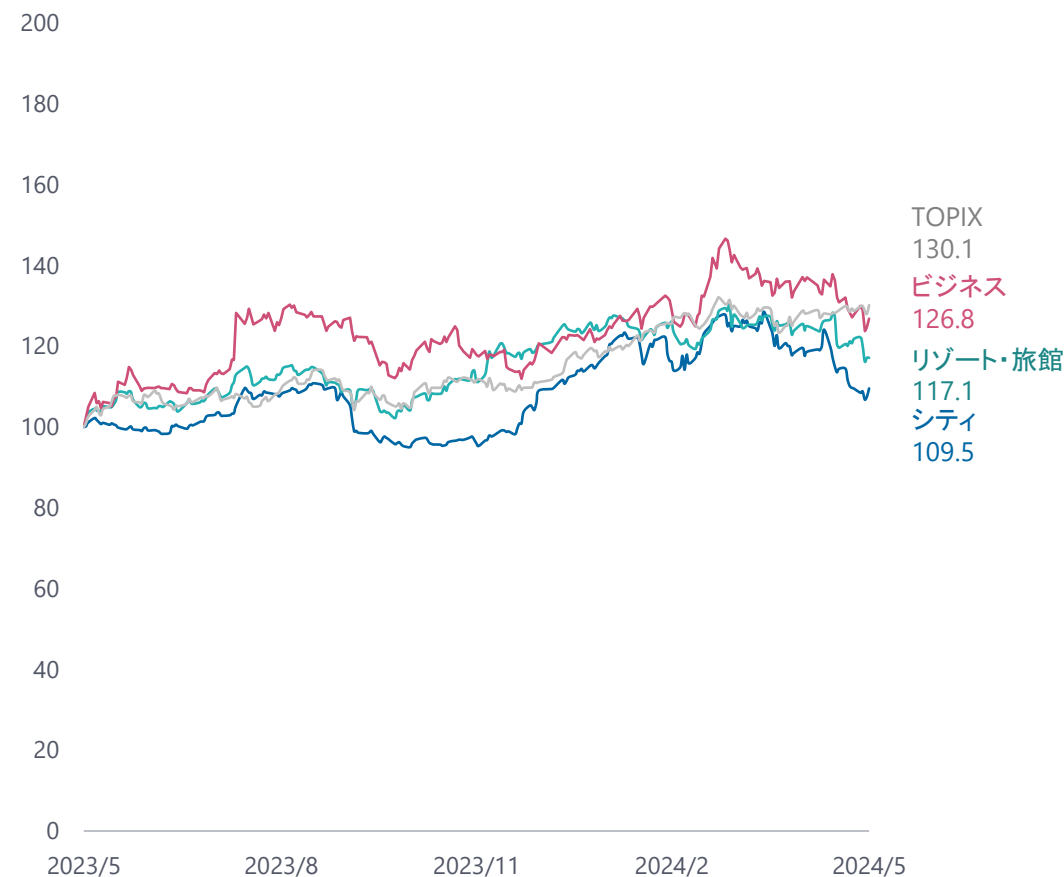
- 記録的な円安の継続や2024年3月単月の訪日観光客数が過去最高の308万人の達成等を背景に、各カテゴリで増減幅や時期に差はあるものの、概ね成長基調。特に、大手のリゾートトラストならびに共立メンテナンスが順調に時価総額を成長させており、各カテゴリの成長をけん引

## 時価総額

		時価総額		
(億円)		2023/5/31	2024/5/31	成長率
シティ	ポラリス・ホールディングス	114	266	133.5%
	アゴーラホスピタリティーグループ	61	122	100.0%
	京都ホテル	88	97	10.3%
	ロイヤルホテル	204	156	(23.7%)
	帝国ホテル	1,181	1,020	(13.6%)
	藤田観光	433	755	74.3%
	ホテル、ニューグランド	46	55	18.4%
リゾート・旅館	リソルホールディングス	261	271	4.0%
	リゾートトラスト	2,166	2,570	18.7%
	エンゼルグループ	NM <sup>(1)</sup>	34	NM <sup>(1)</sup>
ビジネス	ABホテル	345	210	(39.0%)
	ワシントンホテル	107	94	(12.3%)
	グリーンズ	173	283	63.5%
	共立メンテナンス	1,915	2,420	26.4%
	アメイズ	163	193	18.5%

## 時価総額指数推移(単純合算ベース)<sup>(2)</sup>

2023年5月31日時点の時価総額合計値を100としたときの推移



出所:Capital IQ

(1) エンゼルグループは2023年10月に上場しているため、NM、(2)50%超を保有する支配株主が存在するポラリス・ホールディングス及びABホテルは時価総額の計算から除外

# ホテル | 時価総額推移(2020/1/6 – 2024/5/31)

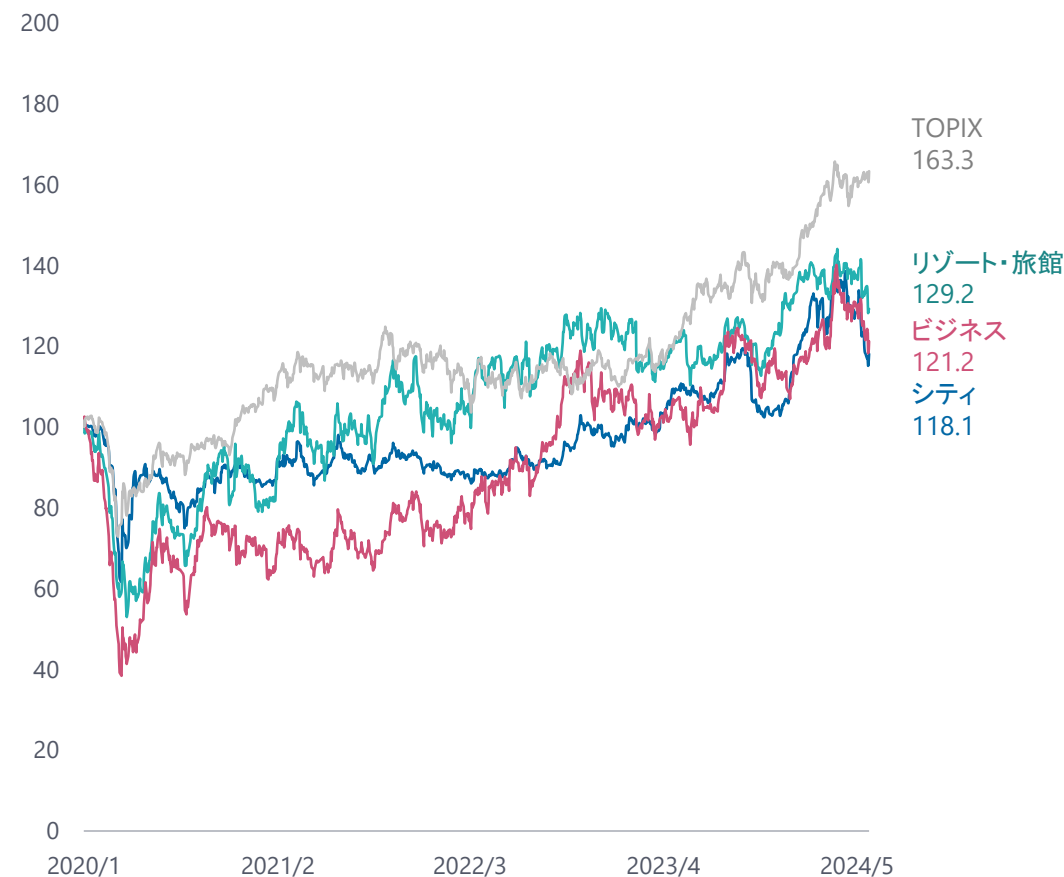
- 各カテゴリともに、コロナ禍前よりも大きく成長。訪日観光客の増加や損益構造の改善を背景に、収益基盤も強化され、時価総額も増加している傾向。コロナ禍前との比較においても、やはり大手リゾートトラストならびに共立メンテナンスが全体を押し上げる形で各カテゴリの成長に寄与

## 時価総額

		時価総額		
(億円)		2020/1/6	2024/5/31	成長率
シティ	ポラリス・ホールディングス	86	266	207.6%
	アゴーラホスピタリティーグループ	81	122	50.0%
	京都ホテル	82	97	18.5%
	ロイヤルホテル	169	156	(8.0%)
	帝国ホテル	1,171	1,020	(12.9%)
	藤田観光	330	755	128.8%
	ホテル、ニューグランド	34	55	63.1%
リゾート・旅館	リソルホールディングス	231	271	17.5%
	リゾートトラスト	1,969	2,570	30.6%
	エンゼルグループ	NM <sup>(1)</sup>	34	NM <sup>(1)</sup>
ビジネス	ABホテル	279	210	(24.5%)
	ワシントンホテル	162	94	(42.0%)
	グリーンズ	149	283	89.4%
	共立メンテナンス	1,969	2,420	22.9%
	アメイズ	187	193	3.4%

## 時価総額指数推移(単純合算ベース)<sup>(2)</sup>

2020年1月6日時点の時価総額合計値を100としたときの推移



出所: Capital IQ

(1) エンゼルグループは2023年10月に上場しているため、NM、(2)50%超を保有する支配株主が存在するポラリス・ホールディングス及びABホテルは時価総額の計算から除外

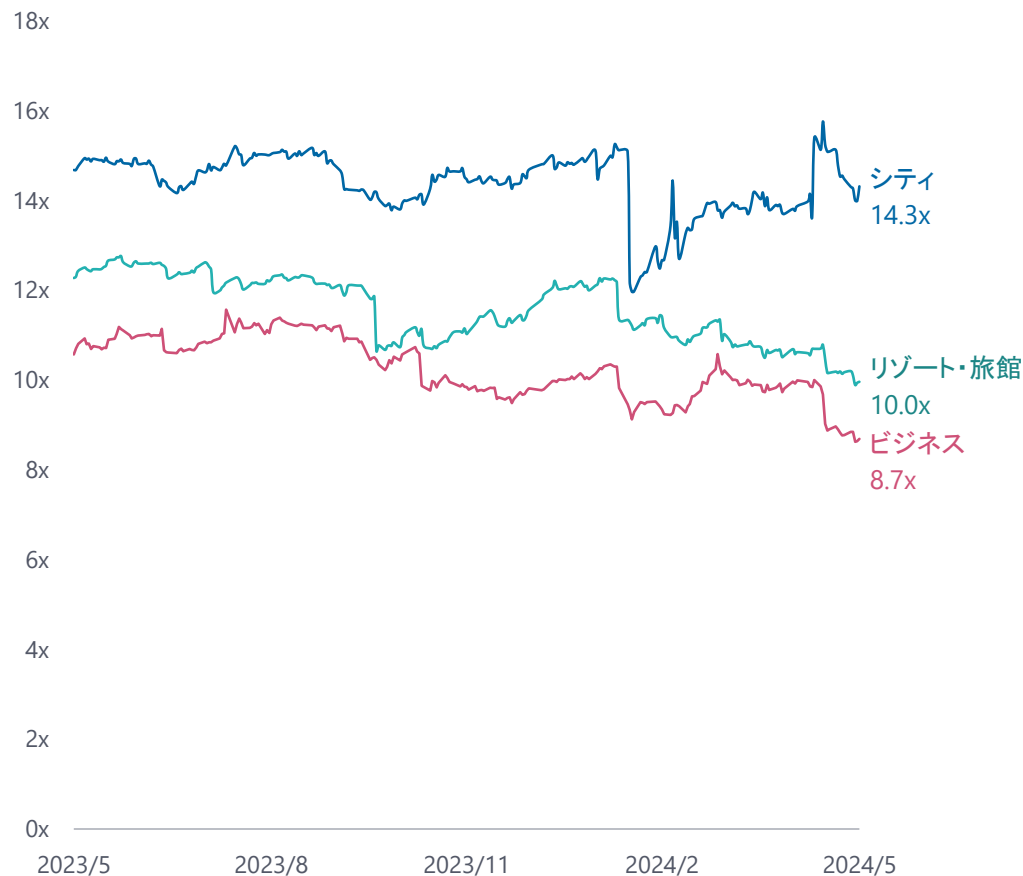
# ホテル | マルチプル推移(直近1年間)

- 2023年から足許にかけて、EV/EBITDA倍率はおよそ9-15xの水準で推移。各社ともに、EVの成長に比して利益水準が成長しており、EV/EBITDA倍率は前年比マイナスとなっている企業が多数という傾向が出ている

## EV/EBITDA倍率

		EV/EBITDA倍率		
(億円)		2023/5/31	2024/5/31	前年比
シティ	ポラリス・ホールディングス	24.8x	13.1x	(11.7x)
	アゴーラホスピタリティグループ	22.5x	22.9x	0.4x
	京都ホテル	19.3x	16.8x	(2.5x)
	ロイヤルホテル	3.1x	3.5x	0.4x
	帝国ホテル	20.1x	23.0x	2.9x
	藤田観光	9.8x	8.3x	(1.5x)
	ホテル、ニューグランド	13.3x	11.4x	(1.9x)
リゾート・旅館	リソルホールディングス	16.0x	11.7x	(4.3x)
	リゾートトラスト	8.5x	8.2x	(0.3x)
	エンゼルグループ	NM	NM	NM
ビジネス	ABホテル	10.7x	5.6x	(5.1x)
	ワシントンホテル	10.5x	9.3x	(1.2x)
	グリーンズ	7.2x	6.1x	(1.1x)
	共立メンテナンス	18.0x	13.8x	(4.2x)
	アメイズ	6.7x	5.6x	(1.1x)

## EV/EBITDA倍率平均推移(見込みベース)<sup>(1)(2)</sup>



出所:SPEEDA

(1) 見込みEBITDAは会社予想の数値を使用

(2) エンゼルグループ、50%超を保有する支配株主が存在するポラリス・ホールディングス及びABホテルはEV/EBITDA倍率の計算から除外

# ホテル | 国内の主要なM&A(2023年4月～2024年5月)

#	公表日	対象会社・物件	買い手	売り手	Deal Value (億円)	対象カテゴリ
1	2024/5/10	フェニックスリゾート	フォートレス・インベストメント・グループ	セガサミーホールディングス	NA	リゾート・旅館
2	2024/5/10	ミナシア	スターアジア不動産投資法人	ユニゾンキャピタル	NA	シティ
3	2024/3/18	ホテルWBF本町などホテル3軒	Axe Management Partners	CapitaLand Ascott Trust Management Ltd	107	ビジネス
4	2024/2/15	湯快リゾート	ローン・スター	日本企業成長投資(NIC)	NA	リゾート・旅館
5	2023/12/5	モクシー京都二条	ブラックストーン	ゴールドマン・サックス	80	シティ
6	2023/11/28	ホテル14軒	KKR、マリオット・インターナル	ユニゾホールディングス	NA	シティ
7	2023/11/20	エイコス	JALCOホールディングス	オーナー	60	シティ
8	2023/9/11	ラ・ジェント・ステイ札幌大通などホテル3軒	ジャパン・ホテル・リート投資法人	Jホテル札幌合同会社	190	シティ
9	2023/8/31	ビスポークホテル大阪心斎橋	City Development	NA	85	シティ
10	2023/8/7	KOKO HOTEL 銀座一丁目などホテル7軒	スターアジア不動産投資法人	Dart LLC	454	ビジネス
11	2023/5/30	リーガロイヤルホテル京都	森トラスト	フォートレス・インベストメント・グループ	NA	シティ
12	2023/4/28	The b 浅草	星野リゾート・リート投資法人	三菱地所	56	ビジネス

出所: MergerMarket

Note: 50億円を下回るとされる規模の案件については除外



本プレゼンテーションは、フーリハン・ローキー株式会社(以下「フーリハン・ローキー」又は「弊社」という。)が貴社(以下「貴社」又は「受領者」という。)の為に、貴社内部限りの利用を前提として作成したものです。本プレゼンテーションは、貴社により今後実行される可能性のある一つ又は複数の取引について予備的な評価をする際の補助とすることを目的として作成されたものであり、本プレゼンテーションの内容の一部又は全部を公表する権利、また、いかなる第三者に対しても開示する権利も受領者に付与するものではありません。本プレゼンテーションは、貴社と協議する際の資料としての使用の為にのみ作成されたもので、弊社による口頭説明によって補完され、かつ、その説明との関連においてのみ考察されるべきものです。弊社の事前の書面による同意なしに、本プレゼンテーション及びその内容を他のいかなる目的にも使用することはできません。

弊社は、公共の情報源から入手した情報、その他弊社が独自に入手・検討した情報が、全て正確かつ完全であることを前提とし作成されたものであり、当該情報は、受領者が本取引を進めるか否かを評価するために必要とする可能性のあるすべての情報を含むとは限りません。フーリハン・ローキーならびにその役員、取締役、従業員、代理人および関係者は、本プレゼンテーションに含まれる情報(将来の予測、事業の推測、見込みまたは利益に関する成果または合理性を含む。)または受領者もしくはそのアドバイザーに対して書面もしくは口頭で提供されるその他一切の情報の正確性、完全性、クオリティ、妥当性または適切性に関し、現在または将来において、明示的にも黙示的にも表明または保証を行わず、義務または責任を負わず、かつ、それらの一切の責任は明示的に免責されます。本プレゼンテーションに含まれる一切の情報に関し、フーリハン・ローキーは独自の検証を行っていません。

本プレゼンテーションの内容は、法律、税務、規制、会計または投資に関する助言または勧告として解釈してはならないものとします。いかなる受領者も、本取引に関する法的事項その他の関連事項に関し、独自のカウンセル、税務アドバイザーおよび財務アドバイザーと相談すべきです。本プレゼンテーションは、すべての情報を網羅することを意図しておらず、また、貴社が必要とする可能性のあるすべての情報を含むことを意図していません。



Houlihan  
Lokey

フーリハン・ローキー株式会社  
〒100-6230 東京都千代田区丸の内 1-11-1  
パシフィックセンチュリープレイス丸の内30階  
+81 3 6212 7100  
CORPORATE FINANCE  
FINANCIAL RESTRUCTURING  
FINANCIAL AND VALUATION ADVISORY

HL.com